

歴史余話

とらべつ

当別町は南北に細長く、北部はピンネシリや神居尻山など標高1000メートル前後の山地がそびえ、『道民の森』などの森林公園があります。一方、南部には田園風景が広がり、落葉広葉樹の防風林がベルト状に延びています。町内を縦断するように流れる当別川には青山ダム・当別ダム（ふくろう湖）があり、石狩川との合流地点付近には旧河川跡による池沼や浚渫工事の排泥地跡地に、湿地や草地、河畔林が見られます。太美地区の丘陵に位置する住宅街スウェーデンヒルズの周辺も緑豊かな街並みです。北海道医療大学もまた広大な保安林を有しています。こうした多様な自然環境は、さまざまな野生動物たちの重要な生息地となっています。

奥深い山地の森林に大型哺乳類であるヒグマやエゾシカが生息していることは周知の事実ですが、人の生活圏内である水田周辺の防風林、住宅地周辺の雑木林においても、シマリスやエゾリス、モモンガをはじめ、キタキツネやエゾタヌキ、ユキウサギ、そして何種類ものコウモ

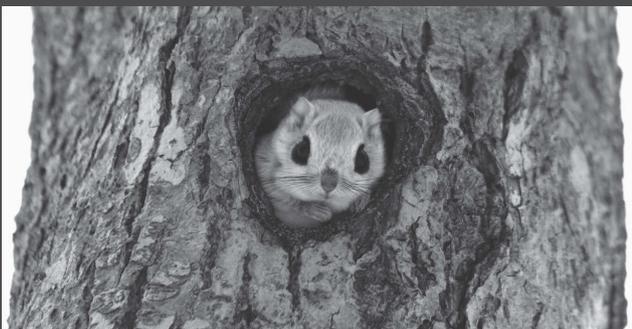
第8回 当別町の野生動物たち

ライター 河井 大輔

リ類など、かなりいろいろな生きものたちが暮らしています。鳥類では、大型猛禽類であるオジロワシが平野部の防風林で子育てをしていることは特筆すべきことでしょう。その他にもオオタカやチゴハヤブサなども生息しています。

こうした生態系の上位に位置する野生鳥獣が身近な場所に生息しているということは、それだけ当別町の自然度が高いことを意味しています。北部のダム湖や南部の湿原、池沼などはオナガガモやキンクロハジロといった水鳥（渡り鳥）たちの重要な中継地点となっていますし、ヤチウグイやエゾホトケドジョウなど魚類の生息地でもあります。さらに各種のトンボ類やゲンゴロウなど水生昆虫なども見られます。

現在編纂中の『新当別町史』の動物篇では、当別町の多様な自然環境において、どのような哺乳類や鳥類、昆虫や魚類などが暮らしているのか、その「現在」と「歴史」について、読者である町民の皆さまにできるだけわかりやすくお伝えしていきたいと思っています。



エゾモモンガ(道川富美子氏撮影)



オジロワシ(池田和彦氏撮影)